

2022年12月7日

各 位

会 社 名 サ イ オ ス 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 喜 多 伸 夫
(コード番号3744 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 IRサービスラインヘッド 近 藤 秀 昭
電 話 0 3 - 6 4 0 1 - 5 1 1 1

サイオスグループ事業戦略発表会に関するお知らせ

当社は、本日14時より報道関係者各位を対象とする「サイオスグループ事業戦略発表会」を開催いたしました。

つきましては、本発表会で用いた資料について、別紙の通りお知らせいたします。

以 上

サイオスグループの事業戦略

サイオス株式会社
代表取締役社長
喜多 伸夫



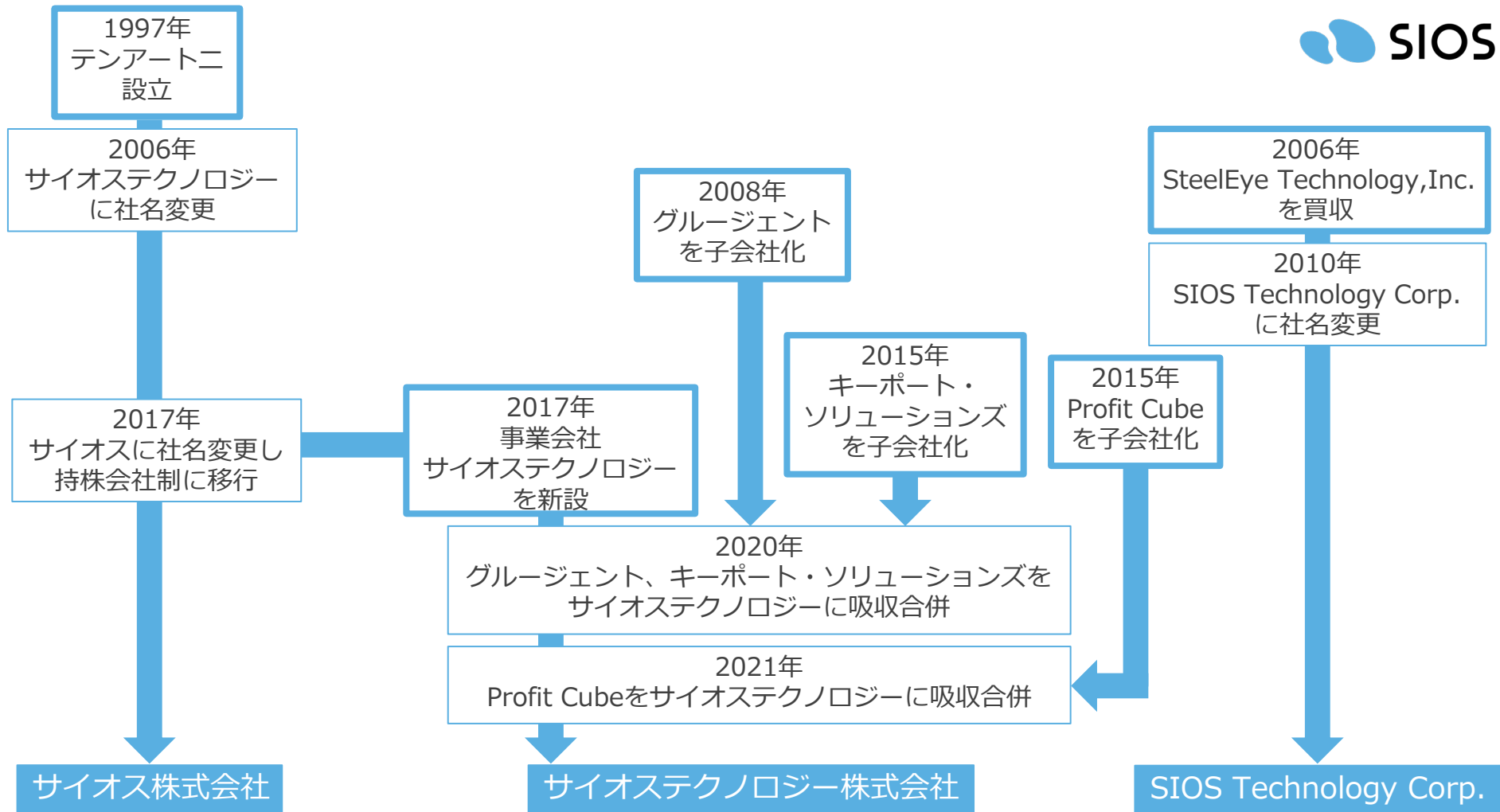
サイオスについて

“ オープンソースソフトウェアを活用した
システムインテグレーションを原点とし、
社会課題を解決するソフトウェア & SaaS、
を提供するテクノロジー企業群 ”

“SIOS is Innovative Open Solutions”

サイオスの歩み

1997年	株式会社テンアート二（現サイオス）設立
2004年	東証マザーズ上場
2006年	米国SteelEye Technology, Inc.（現SIOS Technology Corp.）を買収 社名をサイオステクノロジー株式会社に変更
2008年	グルージェントを子会社
2015年	キーポート・ソリューションズ、Profit Cubeを子会社化
2016年	連結売上高100億円を突破
2017年	サイオス（持株会社）とサイオステクノロジー（事業会社）に会社分割
2020年	サイオステクノロジーがグルージェントとキーポート・ソリューションズを吸収合併
2021年	サイオステクノロジーがProfit Cubeを吸収合併



今後の事業戦略

昨年の状況（2021年12月8日の弊社事業戦略発表会の資料より）

ポストコロナに向けて



コロナ禍の影響で組織に“レジリエンス”と“アジリティ”が必要不可欠であることが明確化

デジタル技術を活用したビジネスモデル変革（DX）が必須

サイオスのSaaS（Software as a Service）で
DX実現を支援

- コロナ禍を契機とし、引き続き、DX実現に向けたSaaSを含むパブリッククラウド活用の機運は高まっている
- SaaS市場は、2022年度（予測）に約1.3兆円（前年比114%）となる（参考：富士キメラ総研「2022 クラウドコンピューティングの現状と将来展望 市場編」）

□ SaaS事業への投資を継続強化

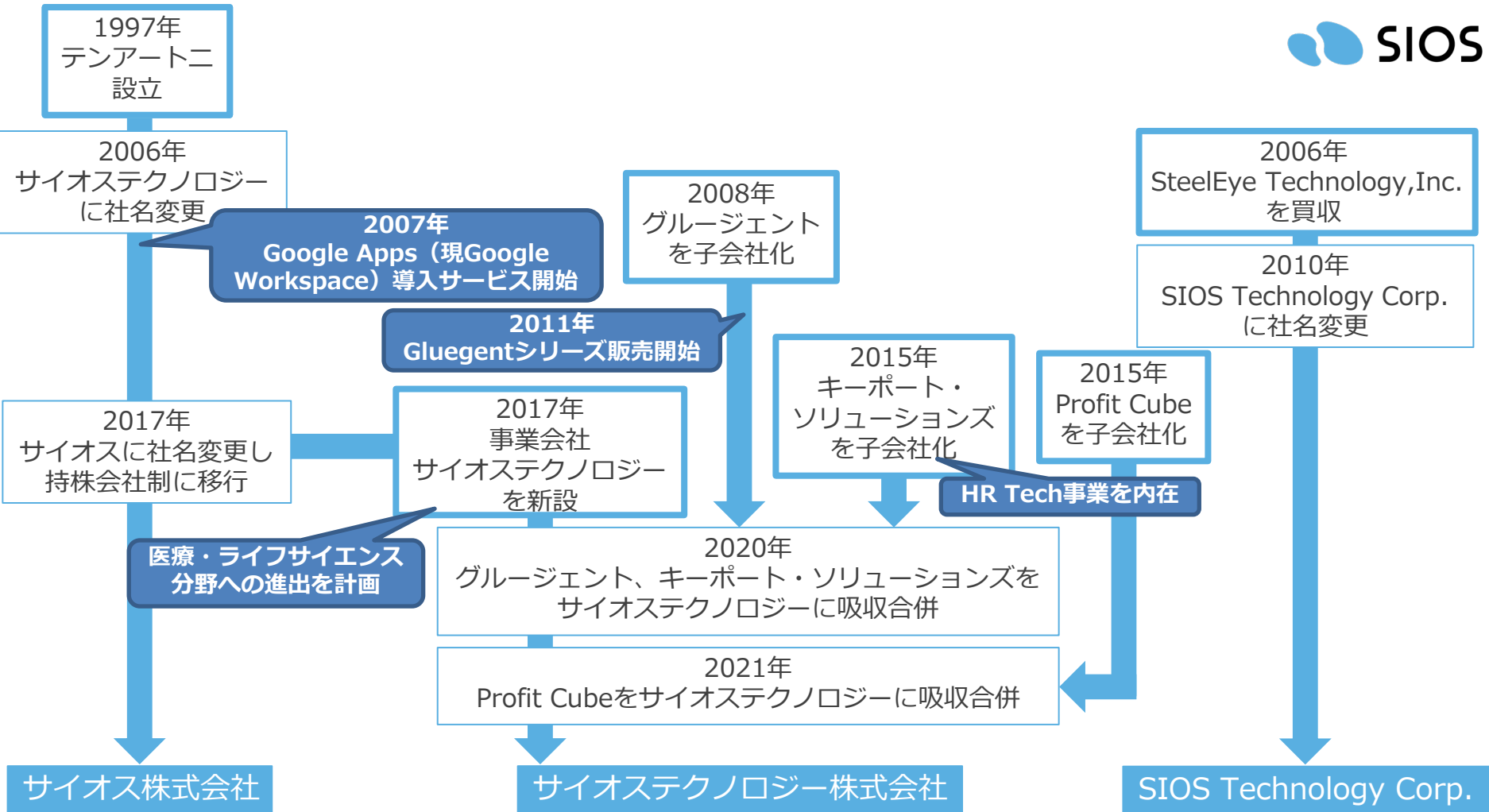
□ 既存製品

- 「Gluegentシリーズ」

- 「HR Tech」

□ 2022年新規製品

- 「Med Tech」



Med Tech

医療情報システムの導入状況



電子カルテシステム等の普及状況の推移

電子カルテシステム	一般病院 (※1)	病床規模別			一般診療所 (※2)
		400床以上	200～399床	200床未満	
平成 20年	14.2 % (1,092/7,714)	38.8 % (279/720)	22.7 % (313/1,380)	8.9 % (500/5,614)	14.7 % (14,602/99,083)
平成 23年 (※3)	21.9 % (1,620/7,410)	57.3 % (401/700)	33.4 % (440/1,317)	14.4 % (779/5,393)	21.2 % (20,797/98,004)
平成26年	34.2 % (2,542/7,426)	77.5 % (550/710)	50.9 % (682/1,340)	24.4 % (1,310/5,376)	35.0 % (35,178/100,461)
平成 29年	46.7 % (3,432/7,353)	85.4 % (603/706)	64.9 % (864/1,332)	37.0 % (1,965/5,315)	41.6 % (42,167/101,471)
令和 2年	57.2 % (4,109/7,179)	91.2 % (609/668)	74.8 % (928/1,241)	48.8 % (2,572/5,270)	49.9 % (51,199/102,612)

オーダリングシステム	一般病院 (※1)	病床規模別		
		400床以上	200～399床	200床未満
平成 20年	31.7 % (2,448/7,714)	82.4 % (593/720)	54.0 % (745/1,380)	19.8 % (1,110/5,614)
平成 23年 (※3)	39.3 % (2,913/7,410)	86.8 % (401/700)	62.8 % (827/1,317)	27.4 % (1,480/5,393)
平成26年	47.7 % (3,539/7,426)	89.7 % (637/710)	70.6 % (946/1,340)	36.4 % (1,956/5,376)
平成 29年	55.6 % (4,088/7,353)	91.4 % (645/706)	76.7 % (1,021/1,332)	45.6 % (2,422/5,315)
令和 2年	62.0 % (4,449/7,179)	93.1 % (622/668)	82.0 % (1,018/1,241)	53.3 % (2,809/5,270)

【注 釈】

- (※1) 一般病院とは、病院のうち、精神科病床のみを有する病院及び結核病床のみを有する病院を除いたものをいう。
- (※2) 一般診療所とは、診療所のうち歯科医療のみを行う診療所を除いたものをいう。
- (※3) 平成23年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県の全域を除いた数値である。

出典：医療施設調査（厚生労働省）

医療情報システムの普及率は年々上昇しているが標準化・クラウドの活用は進んでいない

出典：厚生労働省

「健康・医療 医療分野の情報化の推進について」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/johoka/index.html

「技術面から見た標準的医療情報システムの在り方について」で示されている方向性

現状の問題

- 当時の技術状況を踏まえたベンダーの独自仕様や独自のデータ格納形式によるオンプレミスのシステム
- 施設ごとのハウスコードの存在
- 様々な医療機器との接続性等への対応が弱く、システムを接続するたびにコスト負担

考え方

- 技術は10年単位で推移。多様性も重要であり、統一された電子カルテ、画一化された製品は現実的ではない
- 医療情報の共有は、技術の発展に対応できるような統一されたデータ連携仕様等に基づいた標準的な医療情報システムにより進めるべき

具体的な対応

- HL7 FHIR（データがXML又はJSON形式で表現され、アプリケーション連携が非常にしやすいことが特徴）を用いてWeb APIで接続（システムやソフトウェアの開発技術者を確保しやすいメリット）
- 検査・処方・病名など必要な標準コードから実装、ハウスコードからの変換
- クラウドベースで、安全、低額かつ高速に情報を取り扱うことの可能性を追求

今後の医療情報システムが目指す方向性

- 施設外での医療データ管理・流通の実現（医療機関間での医療情報共有、PHR等）
- 医療の実態評価・臨床研究等へのリアルワールドデータの活用の実現
- 医療現場の意思決定支援への活用の実現（医療の質・安全向上のためのシステム等）

左記の通り、
「医療情報の共有は統一されたデータ連携仕様等に基づいた標準的な医療情報システムにより進めるべき」
との方向性が厚生労働省より示されている

出典：厚生労働省
「電子カルテ等の標準化について 令和2年10月21日」
<https://www.mhlw.go.jp/content/12600000/000685281.pdf>

精神科病院向け電子カルテ (INDIGO NOTE)

医療法人社団成仁の監修・設計のもと、精神科病院向け電子カルテサービス。

次世代医療情報交換規約「HL7®FHIR® (Fast Healthcare Interoperability Resource)」を国内の電子カルテサービスとして初めて採用*。



*2022年1月26日現在当社調べ

Google Cloudのグローバルでも 先進事例として本日公開



Google Cloud

Overview Solutions Products Pricing Resources Contact Us



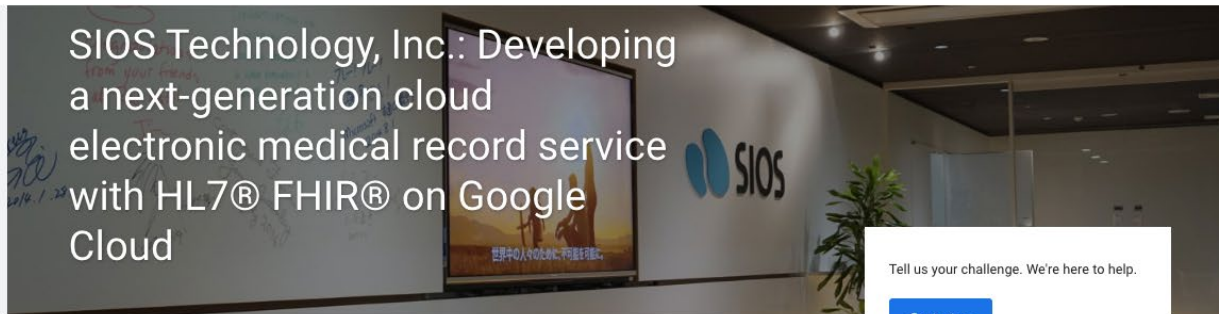
Docs Support

日本語

Console



Start free



SIOS Technology, Inc.: Developing a next-generation cloud electronic medical record service with HL7® FHIR® on Google Cloud

Tell us your challenge. We're here to help.

Contact us

SIOS Technology, Inc. and Seijin Medical Corporation have developed INDIGO NOTE, a cloud-based electronic medical record service that uses HL7® FHIR®, the next-generation medical information exchange standard.

Google Cloud results

- Helps standardize and develop a next-generation HL7® FHIR®-based electronic medical record service
- Enables 24/7 operations without disruptions with GKE
- Achieves rapid feedback cycles during development with Cloud Healthcare API

Contributes to future medical DX with a cloud-native system,



About SIOS Technology, Inc. | Seijin Medical Corporation

SIOS Technology, Inc.

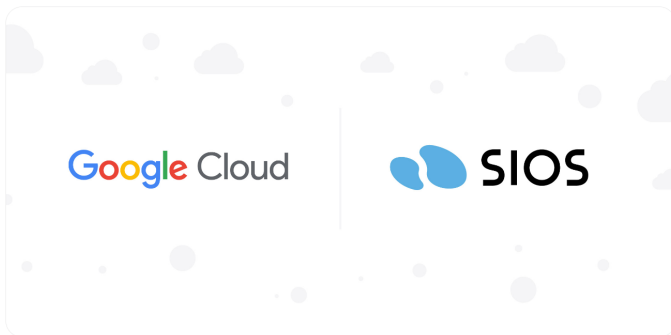
SIOS Technology, Inc. has been focused on commercializing open-source software and software products developed in house. The company recently launched products and

<https://cloud.google.com/customers/sios-technology/>

顧客事例

サイオステクノロジー：次世代標準規格である HL7® FHIR® 採用のクラウド電子カルテサービスを Google Cloud で実現

2022年7月1日



Google Cloud Japan Team

サイオステクノロジー株式会社（以下、サイオステクノロジー）は、医療法人社団 成仁（以下、成仁）の委託・監修・設計のもとで、精神科病院向けのクラウド電子カルテサービス「INDIGO NOTE（インディゴノート）」を開発しました。この INDIGO NOTE は、次世代医療情報交換規格「HL7® FHIR®」をベースに構築された電子カルテサービスであり、その基盤には HL7® FHIR® 準拠の Cloud Healthcare API が採用されています。その背景や活用のポイントについて話を伺いました。

利用しているサービス：

[Cloud Healthcare API](#)、[Google Kubernetes Engine](#)、[Cloud Storage](#)、[Cloud SQL](#)

利用しているソリューション：

[医療データの相互運用性](#)

<https://cloud.google.com/blog/ja/topics/customers/sios-enables-cloud-electronic-health-record-service-on-google-cloud>

政府や医療業界のデータ標準化に呼応

- 医療機関間での医療情報共有
- 臨床研究等への活用

フルクラウドのサブスクリプションモデル

- 導入コストを大幅に削減可能
- これまでコストが理由で導入を進められなかった医療機関にも適用
- いつでも、どこでも、どんなデバイスでも利用可能

後発としてベストプラクティスを集約

- 後発の強みを活かし、先発品の成功に資する知識や失敗から学ぶ知識を吸収

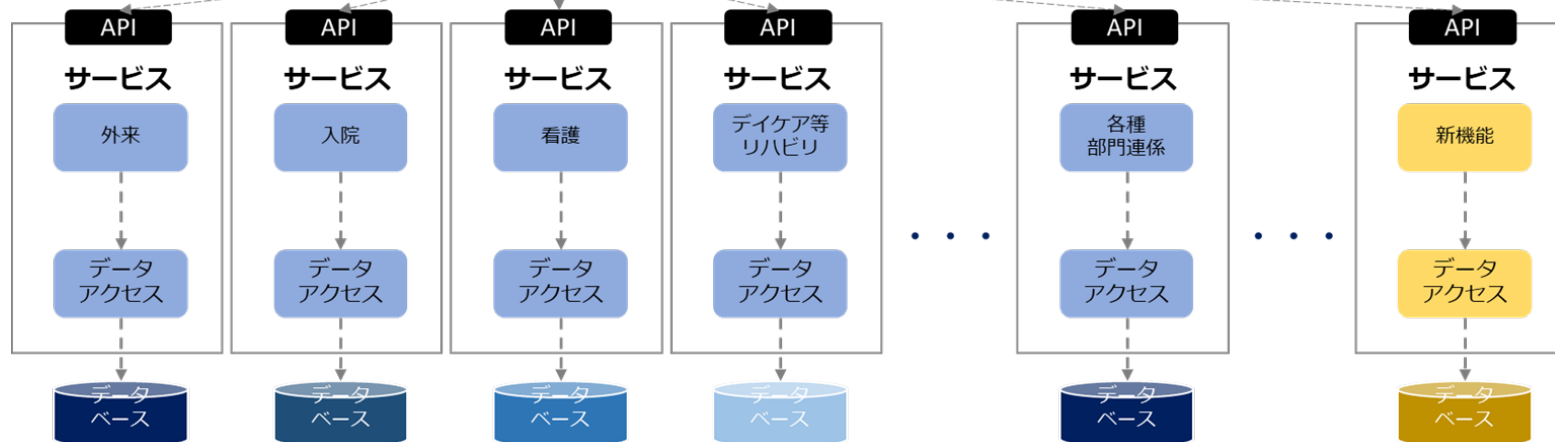
マイクロサービスアーキテクチャの特長

マイクロサービスアプリケーション
各機能が独立したサービスとして稼働



プレゼンテーション

システムがサービス
(機能) 毎に分割されて
いるため、機能改修
や追加が行いやすい



精神科病院で必要とされる機能を網羅

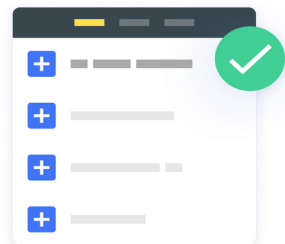
患者情報管理	患者一覧（外来・入院）、受付、予約、相談
診察	SOAP記事登録、診察入力補助、テンプレート、患者プロフィール、記事参照、シエーマ図
オーダーリング	処方、入院定期、検体検査、心理検査、手術、注射、処置、画像検査、ECT、食事療法、デイケア、作業療法、集団精神療法、訪問介護、服薬指導、栄養指導、理学療法、摂食療法、言語療法、心理面接
文書管理	文書作成、期限管理、文書管理
入院	入院患者の処遇、隔離拘束、行動範囲
看護	看護計画、看護記録、入院病床管理、入院診療計画、外出外泊、看護ケア、包括的指示、看護日誌、移動オーダー
コミュニケーション	報告、患者共有情報、患者掲示板

精神科向けにサービス開始

将来的には、精神科以外の診療科へ展開拡大を目指す

製品・サービスの拡充

APIの拡充によるレセプト等の他システムとの連携を強化し、提供サービスを拡充



世界中の人々のために、
不可能を可能に。

サイオステクノロジーの SaaS 事業について

Gluegent シリーズ
HR Tech

サイオステクノロジー株式会社
SaaS ビジネスストラテジスト
瀧下 浩



瀧下 浩

たきした ひろし

サイオステクノロジー株式会社
SaaSビジネス ストラテジスト

略歴

- 2003年、京都大学大学院修了
- 2003年、株式会社四次元データ（現シナジーマーケティング）入社
- 2007年、Ed Techスタートアップ創業（B2Cクラウドサービス）
- 2010年、株式会社グルージェントにて
PdM(プロダクトマネージャー)、エンジニアとして
企業向けクラウドサービス開発を牽引
- 2012年に同社取締役CTO、2015年には取締役COOに就任
- 2017年よりLRM株式会社の技術顧問としてSaaS開発に寄与、2019年に社外取締役就任
- 2020年10月、サイオステクノロジー株式会社上席執行役員に就任（合併）
- 2021年11月、サイオステクノロジーのSaaSビジネス ストラテジストに就任（現任）
- 2022年8月、サイオステクノロジーの上席執行役員を退任
- 2022年9月、LRM株式会社 取締役CFO就任

企業IT環境を取り巻く変化

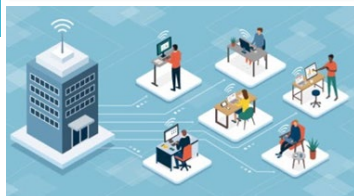
- BCP・パンデミック：震災、COVID-19など
- 働き方の変化：テレワーク推進、労働環境の変化、法律改正、緊急事態宣言など
- クラウド：増え続けるクラウドアプリケーション
- DX推進：クラウド・モバイル、AIなどの活用
- 境界防御型の崩壊：マルウェアや N/W 負荷の増加、不正アクセスなど

これまでの働き方



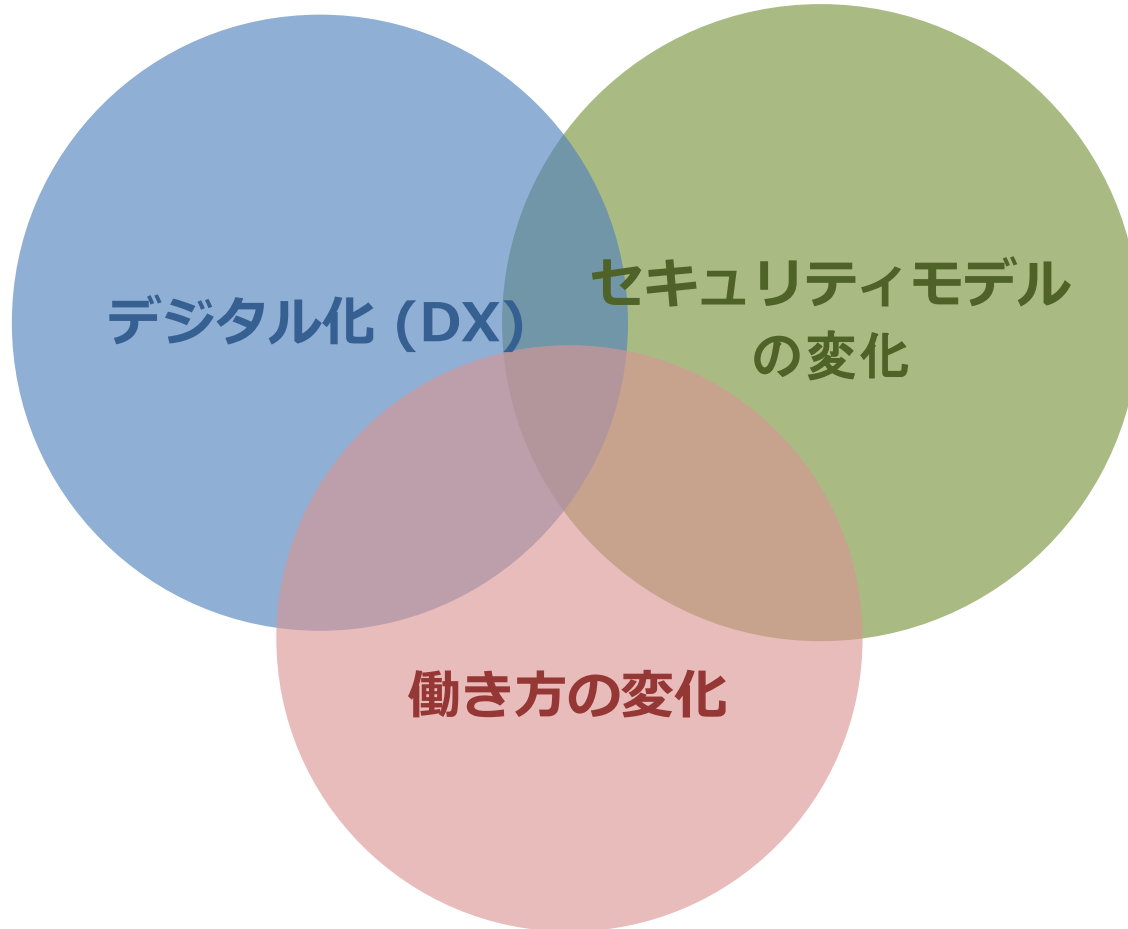
- ✓ 業務はオフィスに出社して行う
- ✓ 社内のリソースでビジネスをすすめる

これからの働き方



- ✓ 業務の場所はオフィスとは限らない
- ✓ テレワーク、時差・時短勤務など多様なワークスタイル
- ✓ 国内外・社内外のパートナーとビジネスをすすめる

大きな変化



Gluegent シリーズ

コンセプト

Gluegent シリーズは、
日々の仕事を安心快適にするクラウドサービスです。
働く人が能力を最大限に発揮できる環境づくりを支援いたします。

社会は驚くべき速度で、しかも加速度的に進化を続けており、それに伴い新たな安心快適が必要だと考えております。

Gluegent は時代が変わっても、その時代の一步先の安心と快適を提供し続け、働く人がより多くの能力を発揮できるよう、進化し続けてまいります。



すべての企業へ

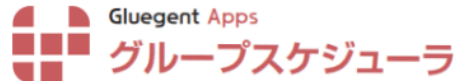
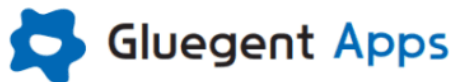
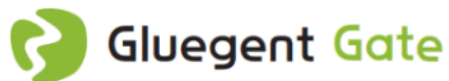
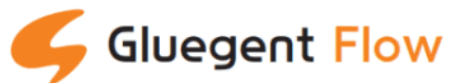


つながるクラウド



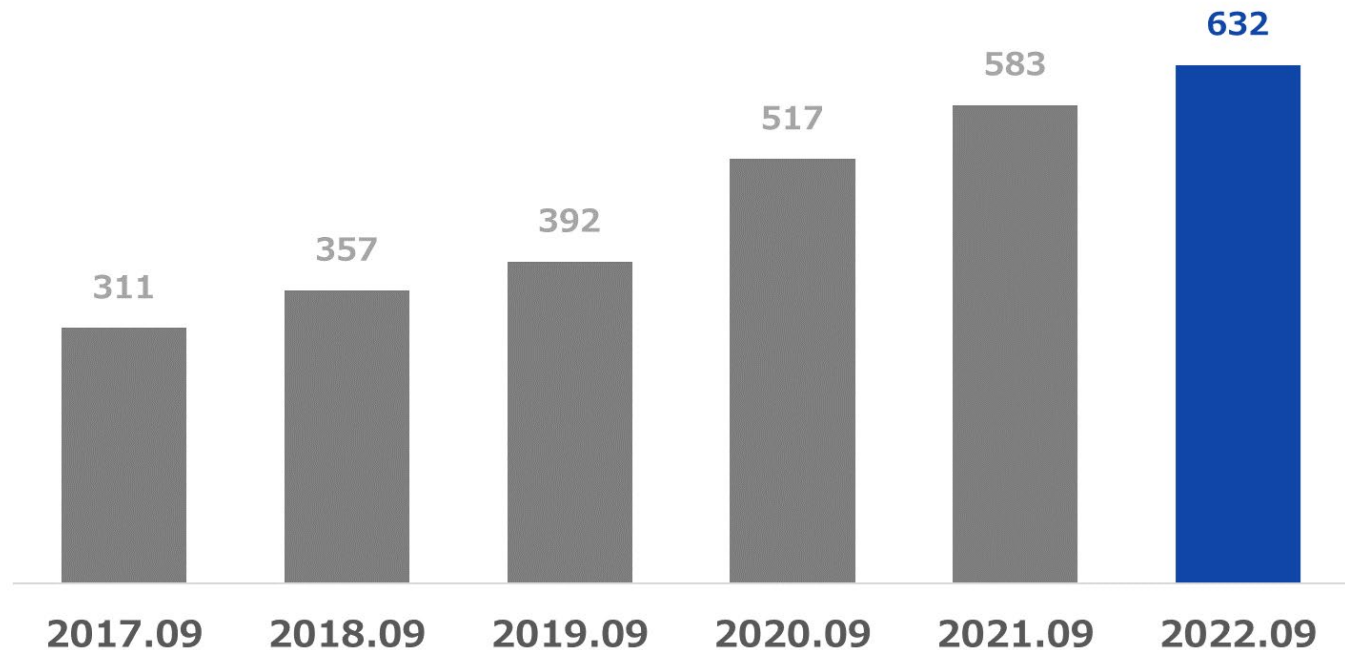
これからの課題にも

視認性を高め各サービスの特徴をより明確に



Gluegentシリーズは着実に成長

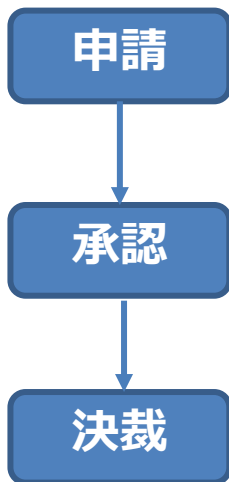
【GluegentシリーズのARR (注) 推移 (単位：百万円)】



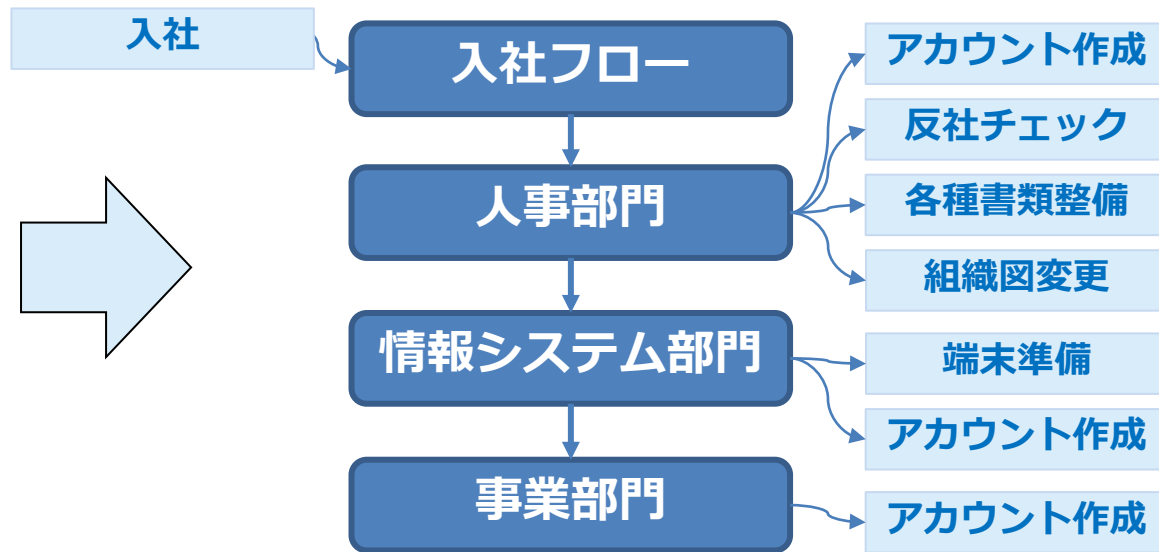
(注) ARR (Annual Recurring Revenue) = 月末におけるMRR (サブスクリプション契約等に基づき毎月繰り返し得られる収益の月間合計) × 12ヶ月

稟議申請のワークフローから、業務を回すワークフローとその自動化

従来型ワークフロー



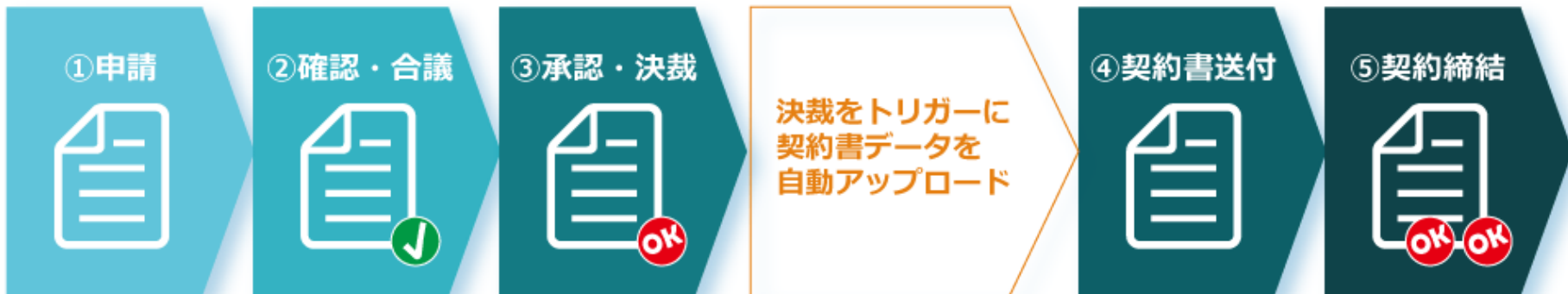
新しいワークフロー



ワークフローでの申請・承認の流れからそのまま各種電子契約サービスと連携



電子契約サービス



レビューサイトでもユーザーから高い評価を獲得



スマートキャンプ株式会社が今最も評価されているSaaSを表彰する「BOXIL SaaS AWARD Winter 2022」において、ワークフローシステム部門で「**GoodService**」および「**使いやすさNo.1**」をダブル受賞いたしました。

※対象カテゴリのうち、対象期間内（2021年10月1日～2022年9月30日）に、各カテゴリ、各項目において一定の基準を満たした上で、各カテゴリ、各項目において、最も高い平均点を獲得したサービス



IT系レビューサイトの ITreview にてこの秋に発表された「ITreview Grid Award 2022 Fall」において、Gluegent Flow が **ユーザーの評価や満足度が高い「High Performer**」を受賞！2021年4月に発表された 2021 Spring から、7期連続での表彰となりました。

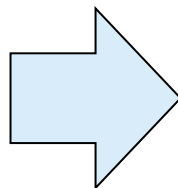
Identity is the new perimeter (アイデンティティが新たな境界線である)

Gartner : Bob Blakley "2012 Planning Guide : Identity and Privacy."

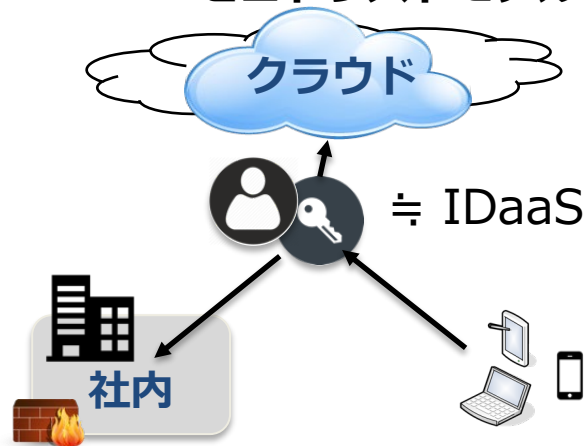
境界防御モデル



従来型の LAN/WAN をセキュリティの境界線としたモデルは、新しいワークスタイルやモバイル・グローバルの活用の中で限界に。



ゼロトラストモデル



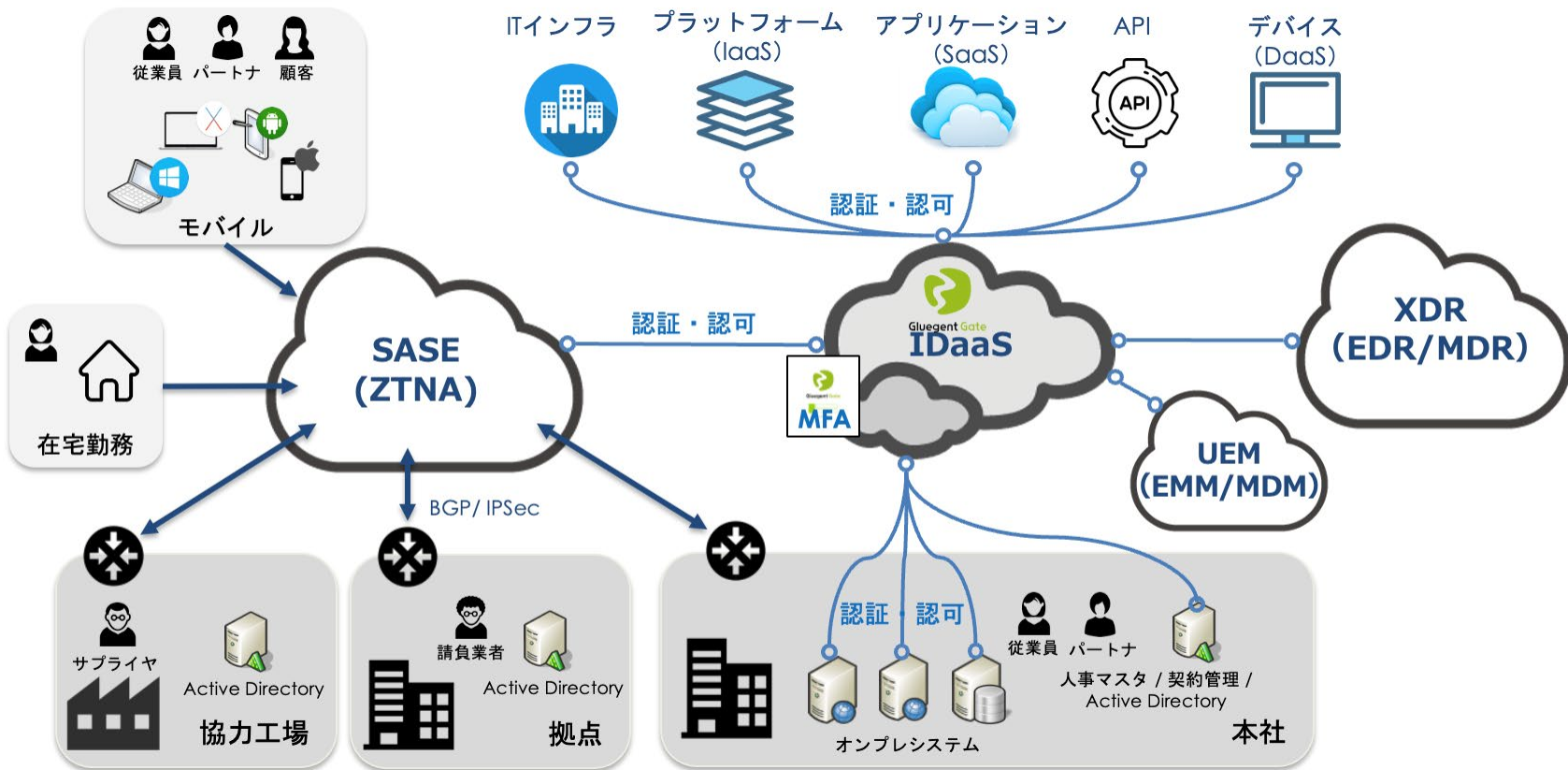
クラウド・モバイル・グローバル環境でのセキュリティの境界線は、アイデンティティや端末の管理が重要。

ゼロトラスト <Zero Trust>

これからの働き方・これからの IT に対応した新しいセキュリティモデル

「Gluegent Gate」と日本コンピュータビジョン株式会社の顔認証を連動させ
顔認証シングルサインオンをイオンファンタジーに導入





Gluegent シリーズの強化ポイント SIOS

Gluegent Flow

Gluegent Gate

開発

- 複数のサービスと連携して課題を解決していくための機能強化
- 稟議申請だけでなく業務を回す上で必要な機能の強化

- ゼロトラストにおけるポジションをより明確に打ち出すための機能強化

販売

- パートナー販売体制の強化
- KPIを適切に改善していくサイクルづくり

- エンタープライズに提案できる体制の強化

HR Tech



「テレワーク先駆者百選」に選定

<https://www.sios.com/ja/news/info/20221111.html>



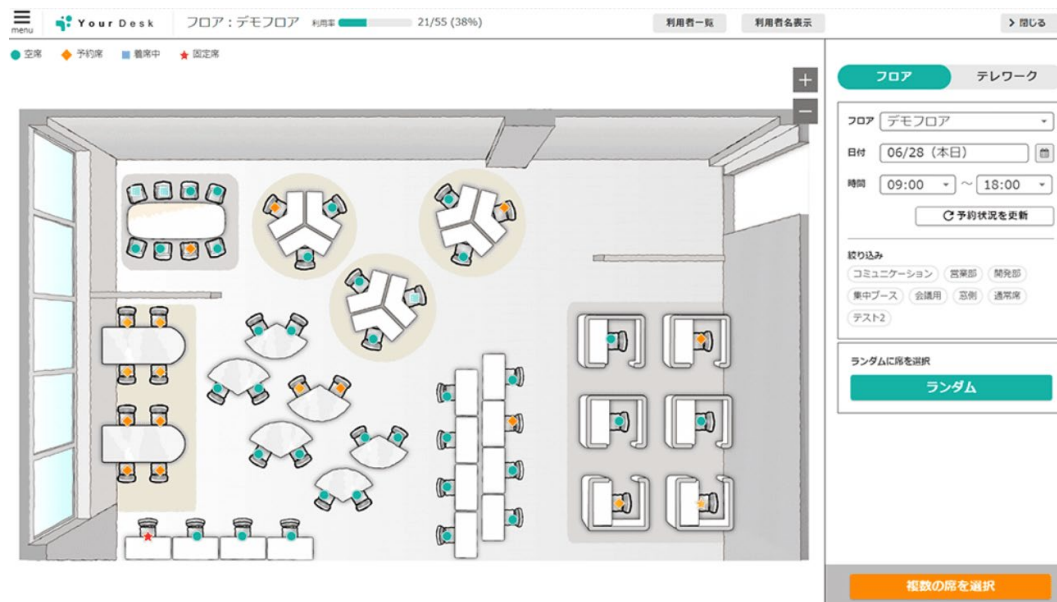
「働きがいのある会社」に認定

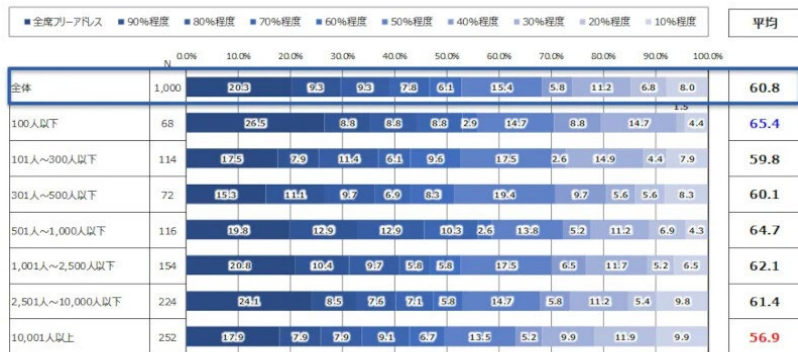
<https://www.sios.com/ja/news/info/20221102.html>

「YourDesk」は、フリーアドレスの座席管理システム

【YourDesk（ユアデスク）】

直感的な画面レイアウトで、フリーアドレスとテレワークを一元管理する座席管理システムです





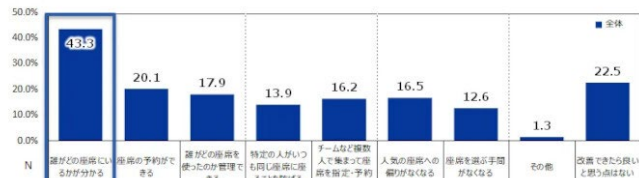
オフィスにおけるフリーアドレスの導入率

市場

- リモートワークが当たり前の時代
- オフィス縮小してのフリーアドレス導入が増加
- フリーアドレスの座席割合は60%超
- 誰がどの席にいるかわからないという基本的な課題
- コロナ禍で、いつ誰がどこに座っていたかの把握

YourDesk

- シンプルで明確な課題を解決
- 引き合いからの受注率が非常に高い (4月~9月: 6.5%)
- 商談期間が比較的短い (2ヶ月から3ヶ月程度)
- 潜在層へのアピールが不足



会社規模	N	誰がどの席にいるかわかる	座席の予約ができる	誰がどの席を使っているか管理できる	特定の人的リソースも同じ座席に座ることができる	チームなど複数人で集まって座席を指定予約できる	人気の座席への割り当てができる	座席を混雑手段がなくなる	その他	改善できたら良いと思わない
全体	1,000	43.8	20.1	17.9	13.9	16.2	16.5	12.6	1.3	22.5
100人以下	68	36.8	5.9	8.8	13.2	13.2	19.1	13.2	1.5	35.3
101人~300人以下	114	35.1	25.4	18.4	15.8	16.7	12.3	11.4	1.8	23.7
301人~500人以下	72	34.7	22.2	22.2	11.1	13.9	6.9	11.1	1.4	26.4
501人~1,000人以下	116	37.9	25.0	18.1	12.1	20.7	20.7	11.2	1.7	22.4
1,001人~2,500人以下	154	42.9	17.5	20.8	9.7	13.0	13.0	12.3	0.6	21.4
2,501人~10,000人以下	224	47.8	19.2	16.5	14.3	18.3	17.9	12.5	1.3	21.9
10,001人以上	252	50.0	21.0	18.3	17.1	15.5	19.4	14.3	1.2	18.7

フリーアドレスに関する改善点

HR Tech分野の新製品・エンゲージメントサーベイ「OurEngage」提供開始

【OurEngage（アウエンゲージ）】

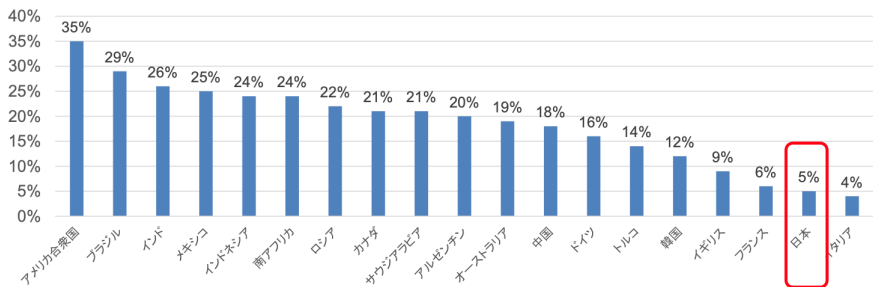
企業価値の持続的向上につながる人材戦略を支援するエンゲージメントサーベイ「OurEngage」を開発、2022年6月1日より受注開始、6月20日より提供開始



エンゲージメントの高い従業員の割合（国際比較）

■ 世界と比較しても日本はエンゲージメントが低い。

G20各国でエンゲージしている従業員の割合



出所：Gallup社「State of the Global Workplace 2022 Report」をもとに調べデータ作成

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

14

市場

- 従業員のエンゲージメントは低い傾向
- リモートワークが当たり前の時代
- 人材獲得競争が激化
- 働く人の状態をうまく把握できていないという課題

OurEngage

- 少ないアンケート項目で効果的な分析が可能
- リアルタイムで組織の状況を把握
- 細かい機能改修を重ね、よりよいサービスを目指す



Your Desk

- 高い受注率を維持し、より認知を上げていく取り組み
- パートナー販売の立ち上げ・強化

販売



OurEngage

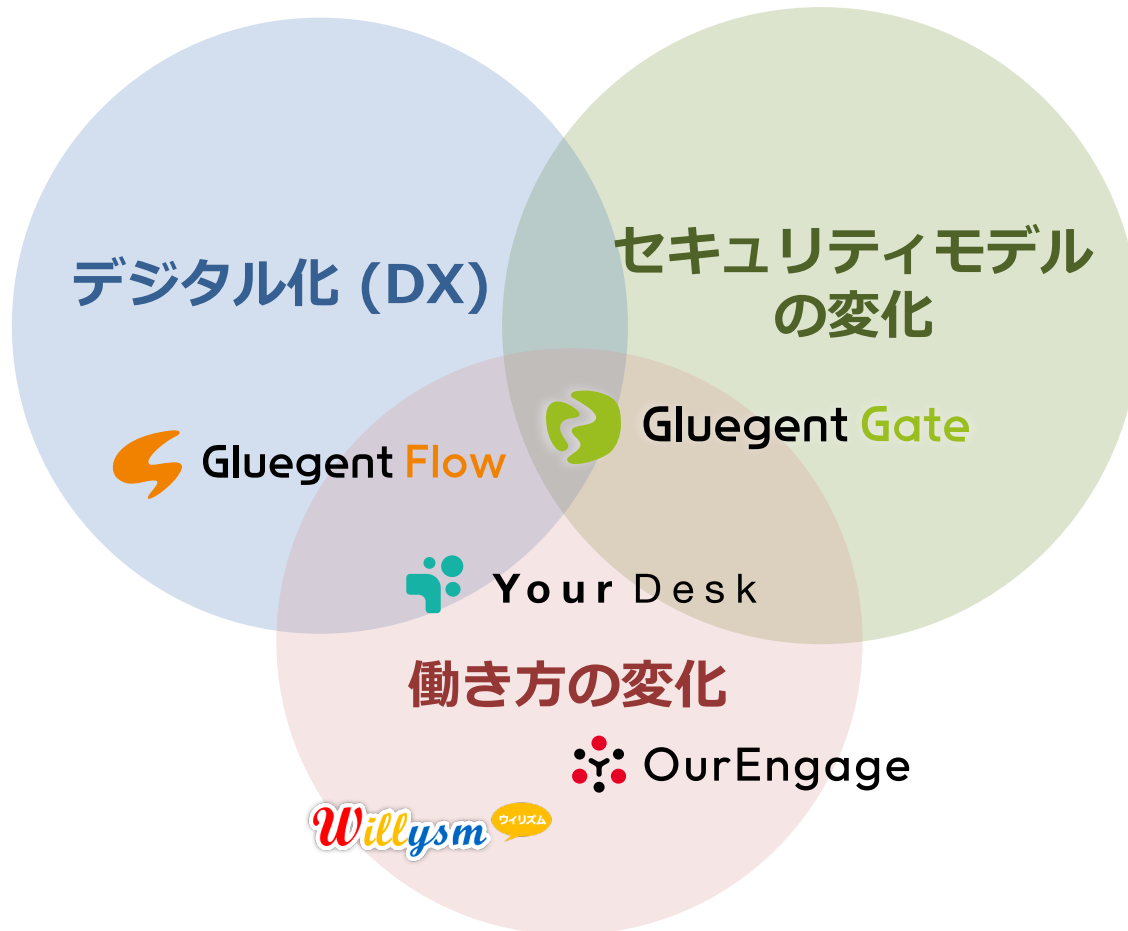
- 実績の積み上げ
- デジタルマーケティング強化
- ウェブサイト強化

開発

- 顧客の声に対応
- ユーザビリティの向上
- 他システム連携の強化

- 使いやすさ、わかりやすさの向上

大きな変化



サイオステクノロジー の強み

サイオステクノロジーのSaaS



Gluegent Flow

Gluegent Gate

Gluegent Apps

Willysm

YourDesk

OurEngage

INDIGO NOTE

H クラウドワークフロー

H IDaaS

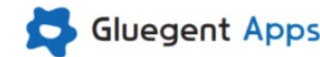
H Google Workspace 補助サービス群

H モチベーション管理クラウド

H フリーアドレス管理クラウド

H HR Tech / エンゲージメントサーベイ

V Med Tech / クラウド電子カルテ

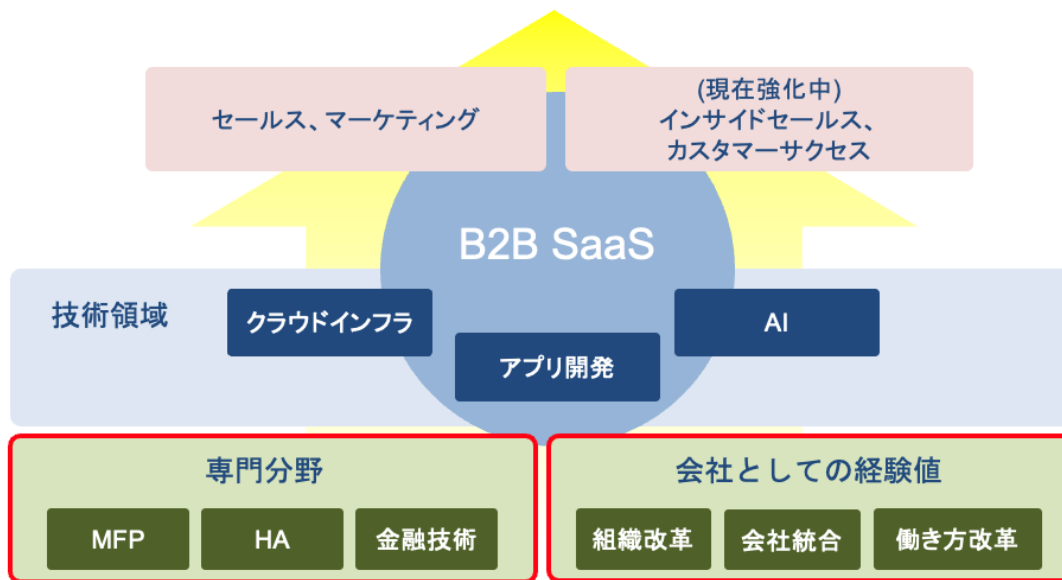


V Vertical SaaS : 特定業界向けのサービス

H Horizontal SaaS : 業界問わずご利用いただけるサービス

サイオステクノロジーの強み②

専門分野の知見・会社としての経験値がある



© SIOS Corporation. All rights Reserved.

お客様との長い関係性
を大切に

